

## スペイン語の特色

教養学部・スペイン語部会・上田博人

スペイン語が世界二十カ国で三億五千万人に話されていること、アメリカ合衆国でも社会・文化面で重要性が増していること、ラテン音楽をはじめ、スペイン語圏の強烈で魅力的な芸術・文化が過去も現在も世界中の人々を魅惑していること、動きの早いサッカー、哀切なスペインギターの調べ、闘牛・フラメンコなどの伝統、世界を大展開させたスペインとラテンアメリカの歴史、目を見張る都市と自然の景観、そして何よりも明るく心優しい国民性…。残念だがこれらのテーマについて書く紙幅の余裕はない。

はじめて学ぶ人のために、言語の特徴だけに限り以下の3点を強調したい。はじめに現代スペイン語の構造を見渡すと、非常に体系的・規則的であることに気づく。英語と比べると形容詞の性と数による変化や動詞の人称と時制による活用語尾の変化が複雑に思えるかも知れないが、慣れてくれば、むしろ形の変化が目印となり、意味がはっきりとわかるようになるので便利だ。しかも、その変化がとても規則的なのでなじみやすい。また、そのシンプルな音声（ローマ字の読み方に近い）は私たち日本人にとくに難しい部分はなく、大きな声で発音すれば大抵は通じてしまう。語彙に関しては英語で覚えた単語がかなり役に立つ。英語にはラテン語系の語彙が多いので、それがスペイン語と通じ合う。最近では、日本語の中にもスペイン語が入ってきているので、私たちにずいぶんと身近になった。このように、文法、音声、語彙について、日本の学生にとって親しみやすい言語だと言える。

スペイン語は主にヨーロッパ（スペイン）と南北アメリカ大陸の広大な地域で話されているが、その方言差は意外に小さい。たとえばメキシコで覚えたスペイン語がスペインでもアルゼンチンでも問題なく通じる。この均質性がスペイン語の第二の特徴である。三番目の特徴は、千年の歴史を通じて変化があまりなく（最初の文献は十世紀）、変化した部分も多くの場合、先に述べたような体系性・規則性を目指した変化だったことである。外国人である私たちでも、『ドンキホーテ』のスペイン語、さらにさかのぼって中世スペイン語にも挑戦できるのである。

これが、英語の他に学ぶべき言語の一つとしてとくにスペイン語を勧める理由である。実際ヨーロッパやアメリカ合衆国、そしてアジアで多くの人が学び、東京大学でも年々履修者数が増加している。